

2014年度の事業報告の概要

(1) 事業活動と経営について

今期も外来、健診、健康増進の3事業それぞれで事業の充実をめざす活動をすすめました。

外来診療・健診では、胃カメラ単位の増設やHbA1c検査の迅速対応を開始し受診者・患者サービスの向上を図りました。医療安全と医療整備の観点から、採血針付きホルダーへ医材を変更し、廃棄容器も単回使用の専用容器にしました。また、「健診時採血関連事故記録報告書」「健診時記録用紙」の2つを作成・稼働し、事故時の迅速な対応が取れるよう改善しました。トイレ環境の改善と所内健診の配置を変更し受診環境を改善しました。また外来診療部や健康増進部では活動指標を数値化し事業活動の見える化をすすめ、所内健診で進行状況を掌握できる通過チェックシステムを導入しました。

事業活動上で外部の専門機関の援助を受けることはこれまでありませんでしたが、今期初めてメンタル支援事業所である「メンタルサポート京都」の支援（業務委託）を受けて、産業医契約先のサポートを充実させることができました。

そして、それらの活動を進める中、今期も事業収益を伸ばして、前年同様に利益を確保できたことはおおい確信とすべきことです。

(2) 法人の掲げた公益事業活動について

今期も定款に定めた地域・職域へむけた公益事業活動を積極的にすすめました。

「健康の維持増進の相談・助言及びその啓発・知識の普及」に関しては、受診勧奨の文書は一般健診受診者の17%にあたる9,910名に送付しました。至急に受診が必要な方には、別途、電話等での連絡や呼び出し、専門医療機関への診療情報提供書の発行など307名の方におこないました。「職場における腰痛予防対策」をテーマに4月に労働安全衛生管理講習会をおこない、滋賀医大の埴田先生とメンタルサポート京都の産業カウンセラーを講師に32団体44名の方に参加いただきました。また友の会と協力し、まちかど健康相談会を伏見イズミヤ店、コープ桃山店、コープ石田醍醐店の3箇所で開催し、合計約160名の方に、血圧と骨密度測定、健康相談をおこないました。

「調査・研究・広報等に関する事業」では、三宅理事長が全日本民医連振動病交流集会で、「上京診療所における尺骨神経麻痺の最近の事例の特徴」及び「振動障害として労災認定を申請したインパクトドライバー使用者の一例」を研究発表しました。2月の京都民医連学術運動交流集会では、川野看護師「慢性疾患中断患者さんへ初めてアンケート調査をおこなって」、横尾健診事務「健康診断の渉外事務活動について」、松田保健師「メンタルヘルス不調者への産業医・保健師の関わり」、高橋友の会事務局長「伏見健康友の会 送迎・外出ボランティア」と、職員4名が演題発表等おこないました。

「生活困窮者に対する無料・低額診療制度に関する事業」では、無低診事業をすすめ、36名の方に利用されています。健診後の増進部からの声かけでの利用開始や知人の紹介、福島からの避難者の利用など、新たな利用者は14名おられました。また、今期は事業所目標に「生活困窮者に対する無料健診の実施」を掲げ、2月14日、生活困窮者への無料健診を南区にあるホームレス支援団体とともに実施し、15名の方へ健康診断をおこないました。また、3月14日にはその健診結果の説明会を開催し、京都南法律事務所の弁護士に協力いただき、法律相談もおこないサラ金問題の相談など、3名の方に対応いただきました。